

島根県江津市室神山周辺に分布する鮮新 更新統江津層群島の星層の堆積相と堆積システム

Sedimentary facies and depositional system of the Shimanohoshi Formation in the Plio-Pleistocene Gotsu Group, Shimane Prefecture

佐々木 泰典 [1]; 石原 与四郎 [1]

Yasunori Sasaki[1]; Yoshiro Ishihara[1]

[1] 福岡大・理・地球圏

[1] Earth System Science, Fukuoka Univ.

鮮新 更新統江津層群は、島根県大田市南部三瓶山西麓から浜田市にかけての日本海沿いの地域に分布する（宇野，1978）。江津層群のうち、その中部にあたる島の星層の堆積環境は、河川の中下流域と考えられているが、詳細な堆積相の認定などはされていない（水野ほか，1994）。本研究では、島根県江津市江の川東側に位置する室神山周辺の東西2.5km、南北2kmの範囲において、堆積相とその空間分布、古流向から、扇状地の堆積システムを検討した。

認定した6つの堆積相の特徴は、次のように要約される。すなわち、堆積相Gmm（土石流堆積物）は、マトリクス支持の淘汰の悪い円礫岩で、塊状あるいは不明瞭な級化を示す。堆積相Gh（浸透堆積物）は、クラスト支持の淘汰の悪い円礫岩からなる。堆積相Gb（重力崩壊堆積物）は、クラスト支持の淘汰の悪い角礫岩からなり、直接基盤を覆う。堆積相St（網状河川堆積物）は、礫質な極粗粒 粗粒砂岩からなり、内部にはトラフ型斜交層理が認められる。堆積相Sm（水中重力流堆積物）は、淘汰の悪い塊状シルト質砂岩や礫質斜交層理を伴う細粒 極粗粒砂岩からなる。堆積相Fsm（湖沼堆積物）は、側方に発達する数mmの厚さの葉理を伴う泥岩である。この地域の層序は、土石流堆積物（Gmm, Gh）と網状河川堆積物（St）の繰り返しで、一部に湖沼堆積物（Fsm）を含む。網状河川堆積物（St）から測定される古流向は、主に北西向きである。堆積相Gmm, Ghが卓越することや堆積相Gmm, Ghの分布から、島の星層の堆積システムは土石流卓越型扇状地で、そこには北西向きの網状河川が形成されていたと考えられる。